



大妻多摩中学校

二〇二四（令和6）年度

入学試験問題（第二回）

【国語】

時間 50分

2月1日（木）

【注意事項】

- 1 問題は17ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、文章中の図は出題者が作成したものである。

ふたつの must は喰い違(ちが)うことがある

ふたつの must、(注1)「一般論」と「べき論」とは、しばしば喰い違(ちが)います。「人は誠実に生きるべきである」は「べき論」ですが、

(注2)「因果応報」「善因善果・悪因悪果」は「一般論」(諺(ことわざ)で言えば「正直の頭に神宿る」)です。

そして「一般論」には「因果応報」だけでなく、それと正反対の「正直者が馬鹿を見る」という一般論も存在します。これは、「渡る世間(せけん)に鬼はなし」と「人を見たら泥棒(どろぼう)と思え」という正反対の諺(ことわざ) (一般論)が存在するのと同じです。へん(注3)のなかに占め

る〈泥棒〉の割合は〇%でもなければ一〇〇%でもありません。〈世間〉における〈鬼〉の(注4)含有率(かんちりつ)だって、〇%でもなければ

一〇〇%でもありません。ただし、「正直の頭に神宿る」と「正直者が馬鹿を見る」とだったら、後者のほうがリアルに見えると感じ(注5)てしまう傾向(けいこう)が人間にはあります (第2章第3節を参照)。

ですから、あるストーリーのなかで、よいおこないをした人が報われ、悪いおこないをした人が罰(ばつ)を受ける、という展開は、あ(注6)

なたの感情のある部署には「納得感(あた)」を与えますが、あなたの感情のべつの部署には「ほんとうらしさ」が足りないという感じを与えることもあるでしょう。そのどちらも、感情です。

(1a) (注6) 蓋然性(がいぜんせい) a 〓 「正直の頭に神宿る」 — (2a) 義務 〓 「人は誠実に生きるべきである」

(1b) 蓋然性 b 〓 「正直者が馬鹿を見る」 — (2b) 義務? (または処世術(しよせいじゆつ)) 〓 「人は抜け目なく生きるべきである」

b系列の「人を見たら泥棒と思え」思想のほう(注7)が、一見頭(かぶ)がいいように見えます。 ②、それはまったく気のせい(注8)で、「人を見たら泥棒と思え」と言いたくなる感情は、自己防衛(じこぼうえい)的な寂しさ(さびしさ)や恐れ(おそ)れと考(かん)えたほう(注9)が実態(じたい)に則(したが)っているのではないでしょう(注10)か?

もちろん、僕がお人よしだからそう考えるのかもしれませんが。

道徳は好き嫌いの背後にある

道徳というと、個人的な好き嫌いとはべつのは
③ な(注7) 規範(きはん)のように思えます。でも、道徳は人の好き嫌いに関係があると
いうとらえかたもあるのです。

あなたには、好きな人がいますか？ また、苦手な人はいますか？ どういう事情でその人やそのものを好きになった
嫌いになったか、思い出せないことも珍(めづら)しくありません。でも、もちろん、その人やものを好きになったり嫌いになったりするきつ
かけが、はつきりしていることもあります。

「あの人は以前、私にとっても親切にしてくれたので、好き」

「あの店は、以前入ったときに、出てきた料理がまずかったので、もう行きたくない」

こういったエピソード記憶(きおく)が、その対象になる人や店の好き嫌いの感情を決めてしまうこともあるでしょう。それどころか、エピソード記憶が発達する前の赤ちゃんですら、対象の好き嫌いを
⑤ なでぎことから引き出します。

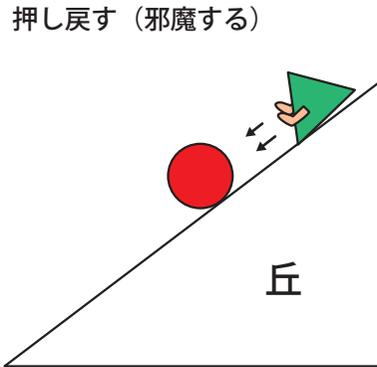
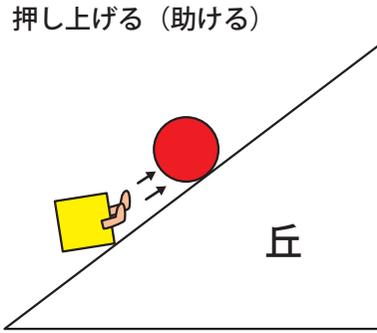
このことでいつも思い出すのは、心理学者ポール・ブルームが、著書『赤ちゃんはどこまで人間なのか 心の理解の起源』(かすがい)（春日井
晶子訳、ランダムハウス講談社）や『ジャスト・ベイビー 赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』(たけだま)（竹田円訳、NTT出版）で繰(く)
返し紹介(しょうかい)している実験です。

ブルームたち実験者は、被験者(ひけんしや)となった赤ん坊(あかぽ)に見せるために、図形が出てくるアニメーションをつくりました。

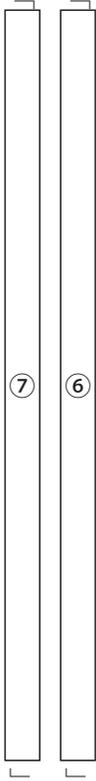
へ赤い丸が丘(おか)を登ろうとしている。すると、黄色い四角が背後からやって来て、やさしく丘の上に押し上げる（助ける）。別の場面
では、緑の三角が前方からやって来て、丸を下へ押し戻した（邪魔をする）。次に、赤ちゃんたちに、丸が四角か三角のどちらかに接
近する画像を見せる。「……」

丸カ月児も一歳児も、丸が助けてくれた図形ではなく、邪魔をした図形に接近したときのほうが、見つめる時間は長かった

《参考：図形が出てくるアニメーションの図》



ブルームによれば、赤ちゃんがより長く見つめる対象は、意外に感じた対象なのだそうです。つまり、



と赤ちゃんの段階ですでにそう感じているということになりますね。赤い丸なんてアニメーションのキャラクターというより、ほとんど記号か模様にすぎません。その丸が丘を登ることに成功しようが失敗しようが、^⑧アニメーションを見ている赤ちゃん本人に直接の利害関係はないというのに。

⑨ 人間は、言葉というものを持っていますから、人が親切をおこなう場面を直接見なくても、^{うわき}噂を聞くだけで相手に好印象を持ってしまいます。こういう先入観を、^⑩な好悪感情こうおと考えていいでしょう。

「あの人は親切（ではない）らしい」「あの人はフェアだ（ではない）」「あの人は勇敢だ（ではない）」「あの人は誠実だ（ではな

い)」「といった評判を聞き知って、人間は「あの人」(目の前のだけかであれ、読んでいる小説の登場人物であれ)のことを好きになつたり嫌いになつたりするし、また⑪自分が「不誠実だ」という評判を立てられることを避けるように振舞うことを考えてしまふのです。

⑩ な好悪感情

進化論では、人間の脳が持っている感情や、思考の癖(注8) 認知バイアスの数々を、文化以前の、群れで狩猟採集をして暮らしていた人間の行動パターンから生まれたものだと言明することがよくあります。生物体としての人類の歴史の大半は、ごく小さな群れで狩猟採集をしながら暮らしていた時間がほとんどです。僕たちが文化と呼ぶようなものが生まれたのは、人類史全体から見ればごく最近の短い期間にすぎません。

狩りに成功する日もあれば、失敗する日もあります。獲物を得た人は、獲物を得ることができなかったメンバーに、獲物を分け与えます。そうすれば、自分がうまくいかなかった日には、周りのだれかに獲物を分けてもらえるのです。このような(注9) 互恵的なシステムがなければ、小さな群れはさつさと滅んでしまい、人類は現在のような繁栄を謳歌することができなかったでしょう(……と、この進化論自体がひとつの「ストーリー」の形を取らざるをえないのですが)。

たんに親切な人が好かれるというだけのシステムではありません。ずるいや(注10) がめつい人が嫌われ、自分はなにも提供しないのに他人からもらってばかりの(注11) フリーライダーが共同体から排除され、不正をおこなったメンバーが罰を受ける、ということまでいって、⑫このシステムが成立します。ここから道徳というものが生まれ、また法という制度もこのシステムにかかわっている、という考えかたがあるようです。

人を助ける人は赤ちゃんにも好かれる、という話をさきほどしましたが、赤ちゃんどころか人間以外の霊長類の一部にも(不公平嫌悪)が見られるということを、動物行動学者フランス・ド・ヴァールは指摘しています(『道徳性の起源 ボノボが教えてくれること』柴田裕之訳、紀伊国屋書店)。

人はどのように生きる「べき」か。

どのように生きる「べき」でないか。

「べき論」は小さな群れで暮らす霊長類が置かれていた、「公平に扱われないと不利になる」という強迫的な状況から生まれた、という考えかたがあるわけです。

(千野帽子『人はなぜ物語を求めるのか』〔筑摩プリマー新書〕より)

(注1) 一般論——ある特定の、または個々の具体的な事柄を考えないで、広く全体を論じる議論。世間に広く認められると考えられる論。

(注2) 因果応報——人の行いの善悪に応じて、必ずその報いが現れること。

(注3) 占める——全体の中である割合をもつ。

(注4) 含有率——成分や内容の一部として含みもつ割合のこと。

(注5) 第2章第3節——「不本意な状況に置かれたときに、『世の中そうそう悪い人はいるものではない、人を信じよう』という人と、『人を見たら泥棒と思え』という人に出会ったら、後者の方が一見「賢く見」えてしまいます(見えるだけです)。人間はどんなナイスな状況に置かれていても、『不本意』な部分を見つけ出してしまいます。だから、後者のほうが「賢く見」えると感じる人のほうが多いのです。」とある。

(注6) 蓋然性——ある事柄が起こる確実性や、ある事柄が真実として認められる確実性の度合い。確からしさ。

(注7) 規範——行動や判断の基準となる模範。手本。

(注8) 認知バイアス——無意識に発生する思考の偏りのこと。

(注9) 互惠——互いに特別の便宜や利益を与え合うこと。

(注10) がめつい人——けちでがちりしている人。利益を得ることに積極的で抜け目がない人。

(注11) フリーライダー——必要なコストを負担せず利益だけを受ける人。

問1 — 線部① 「あなたの感情のある部署には『納得感』を与えますが、あなたの感情のべつの部署には『ほんとうらしさ』が足

りないという感じを与えることもある」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「あなたの感情のある部署には『納得感』を与え」る、とありますが、ここでの「『納得感』を与え」るとはどういうことですか。それを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 正しいことをすると損をするという考えが賢いと信じ込ませるということ。

イ 自分の行動に見合った結果を得るのは当たり前だと感じさせるということ。

ウ 社会の中には正反対となる一般論が存在することに気付かせるということ。

エ 自己防衛的な寂しさや恐れが存在することは当然だと思わせるということ。

(2) 「あなたの感情のべつの部署には『ほんとうらしさ』が足りないという感じを与えることもあります」とありますが、ここでの「『ほんとうらしさ』が足りない感じを与える」とはどういうことですか。それを説明した文として最も適切なものを、次のア～

エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世の中を上手く生きていくためには、善いことばかりしてはいけな^よいのだと思わせるということ。

イ 現実ではすべてを「因果応報」という考え方では説明できないのではないかと感じさせるということ。

ウ 善いことをしても悪いことは起こるのだから、誠実に生きるのはムダであると考えさせるということ。

エ 他人を簡単に信じてしまうと自分に不利益が生じるという考え方のほうが、現実味があるということ。

問2

②・④・⑨に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

い。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア しかし
- イ ただし
- ウ しかも
- エ だから
- オ あるいは

問3

③・⑤・⑩に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

い。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア 意図的
- イ 具体的
- ウ 社会的
- エ 間接的
- オ 実用的

問4

⑥・⑦に入る文章として最も適切な言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。なお、順番は問いません。

お、順番は問いません。

ア 意地悪な凶形のほうに接近するのは意外なことである

イ 意地悪な凶形のほうに接近するのは自然なことである

ウ 人を邪魔する人より、人を助ける人を好きになるほうが意外である

エ 人を邪魔する人より、人を助ける人を好きになるほうが自然である

問5

——線部⑧「アニメーションを見ている赤ちゃん本人に直接の利害関係はないというのに」とありますが、この例の中で利害

関係が生じているのは何と何とですか。その組み合わせとして最も適切なものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

い。

ア 赤い丸と黄色い四角

イ 黄色い四角と緑の三角

ウ 緑の三角と赤い丸

エ 赤ちゃんと赤い丸

オ 赤ちゃんと黄色い四角

カ 赤ちゃんと緑の三角

問6 — 線部⑩「自分が『不誠実だ』という評判を立てられることを避けるように振る舞うことを考えてしまう」とありますが、
なんのために人はそのように考えてしまうのですか。三十五字以上四十五字以内で答えなさい。

問7 — 線部⑫「このシステムが成立します」とありますが、システムが成立するためには、どのようなことが必要ですか。
四十五字以内で分かりやすく説明しなさい。

問8 次のA～Dの文を読み、本文の内容にあてはまるものには○、あてはまらないものには×をつけなさい。ただし、すべて同じ
記号で答えた場合は、採点の対象とならないので注意すること。

A 人が、人やものを好きになったり嫌いになったりするきっかけは存在せず、また、直接見て決めるのではなく他人からの
評判や噂を聞くことによつて好き嫌いを決定している。

B ブルームの実験で赤ちゃんが、邪魔をした凶形に丸が接近するのを見る時間が長かったのは、赤ちゃんには嫌悪を抱いた
対象をより長く見つめるといふ特徴があるからである。

C 人間の感情や、思考の癖が生まれたのは、群れで狩猟採集をして暮らしていた時代の人間の行動パターンからであり、そ
こでの互恵的なシステムによつて人類は繁栄してきた。

D 我々人間だけでなく、人間以外の霊長類の一部にも不公平な扱いに対する嫌悪があり、そこから「くするべきである、
くしてはならない」というような「べき論」が生まれた。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 左手に書かれた「国語びん」に気づいたとき、ぼくは商店街を走っていた。

一瞬スピードをゆるめたが、家に戻るほどの時間もない。それにいまのところ、一度も信号に引っかかることなくここまで来ているのに、走りを止めるのはとてももったいない。ぼくはいま、稲荷通りマラソンの新記録を狙っているのだ。稲荷通りマラソンとは、いま走っているこの「稲荷通り商店街」をルートとする、ぼくの家から学校までのマラソンだ。マラソンと言ってもたった二キロくらいなのだが、参加者はぼくだけなので、なんて呼ぼうが勝手である。家から三つの信号をクリアすると稲荷通り以降信号はないので、かなりの好記録が狙える。

タイムを確認しようと左手を見たとき、「国語びん」に気づいた。親指と人差し指の間の水かきみみたいな部分に赤い水性ペンで書いた「国語びん」は、薄くなつてはいるけれど、しっかりと皮膚にしみこんでにじんでいる。つぎの授業で必ず使うと言われた(注) 国語便覧、兄ちゃんが読むだろうと家に置きっぱなしにしている国語便覧を、ぼくはぜったいに忘れないようにとペンで書いたのだ。「手にペンで文字をかくと、癌になるらしいよ」という不吉な噂を聞いていたが、心を鬼にして書いた。文字が消えないように、昨日のお風呂ではそこだけ避けて洗い、湯船にも左手だけはいれなかった。忘れたとなると、残っている文字をみるだけで腹が立つてくる。めんどくさがって「びん」でやめずに「びらん」まで書くべきだった。

ランドセルがズシャズシャと重たく鳴る。いくら国語便覧を忘れたところで、ぼくのランドセルには教科書三冊にノート三冊、算数の問題集、理科の資料集と実験ファイル、とすでに九冊入っている。きょうは②、という地獄の時間割なのだ。時間割プリントが配られたときは、さすがにプリントのミスなのかと思った。ぼくは数多くある授業の中で国語と理科と算数だけが嫌いなのだ。だから少なくとも四時間目まである一日の授業の中に、ひとつはすぎな教材が入る計算だった。

プリントを見たとき、ぼくはギリギリまで先生に間違いがあることを指摘しようかと迷った。プリントミスを発見すると、その瞬間だけ先生より頭がいい存在になれる。それはとっても気持ちのいい瞬間である。しかし先生はプリントに書いてある時間割と同じ

ものをわざわざ黒板にかいて、

「半年後には六年生になるみなさんに、たくさん勉強してもらおうと思う」と怒っているみたいな表情で言った。ぼくは指摘しなくて良かったと安心すると同時に、ひとつも面白くない時間割にため息をついた。周りを見回したが、この算数二連続に気づいている人はいなかった。ぼくはバレないように先生をちらちらと睨んだ。先生は勉強しなくていいから、そんな簡単につまらない時間割を作れるんだ。

前から風が吹いて、朝のにおいがした。ぼくはしかたなく「びん」のことは考えないことにして、このにおいに触れた。朝のにおいは、とうめいだ。でもそこにしつかり「朝のにおい」というものがある。ぼくはこのにおいが好きだ。敷いたばかりの布団のようにぱりつとしていて、まだ誰にもなじんでいない。もっと多く触れるために両手を広げて走る。稲荷通りのお店はほとんどが九時オープンなので、まだ人通りが少ない。それにこの時間の商店街は、みんなが駅に向かって同じ方向に歩いているので走りやすい。

④ 両手を広げるぼくに向かって、キャンキャンと犬がほえた。チワワだろうか。ぼくはあまり犬には興味がないが、寒くもないのに犬に服を着させるのには反対だ。きょうは秋にしては暖かい日なのに、モコモコのかぼちゃのような服を着ている。飼い主のお婆ちゃんが「ミーちゃん、こら」とチワワに向かって言った。きつとミーちゃんはぼくが気持ちよきそうに走っているのをうらやましく思っているのだろう。暑いことも伝えられないなんて、かわいそうだ。

前に同じクラスのシンジュが見える。いつも石を蹴りながら、石の飛ぶ方向に左右ぎざぎざに歩くので、遠くからでもよくわかる。「よ」と言っ**て**ぼくはシンジュを走**つ**てぬきさる。

「お

シンジュは蹴っていた石をパスするようにぼくの走る方向に飛ばした。ちようどぼくの数歩先にその石は飛んできた。しかしぼくはいま、こう見えて家から学校までの記録を狙っているのだ。国語便覧も犠牲にして。だから石を蹴っている場合じゃない。ぼくはシンジュの石をあからさまに避けて、そのまま走りつづけた。⑤ シンジュには悪いけど、あとで説明すればいいや。

校門につくと同時に、腕時計のストップウォッチを止めると、8分29秒だった。新記録だ。国語便覧と石を無視したかがある。

「あれ、晶あき」

校門で待っているとシンジュがやってきた。ぼくが無視した石を手に持っていて、校門の横に隠かくすように置いた。

「新記録でた」

ぼくは腕時計をシンジュにみせる。

「だから石よけたのかあ」シンジュは腕時計にぐっと顔をよせて言った。

「あ、ごめん。パスしたよね」

「そうだよ、見失うとこだった。けっこういい石なんだぜ、あれ」シンジュは、手でキツネをつくって、そいつに言わせた。

「ごめんよ」ぼくも両手でカエルをつくってあやまった。カエルをつくるまでに少し時間がかかって、シンジュは笑った。ぼくも一緒に笑ったけれど、石をよけるだけでなくて、振り返ってぺこりともすればよかつたなど、さっきのことを反省した。

「晶、きょうも帰り、闘たたかって帰ろうぜ」

「いいよ、でもきょう、荷物重いね」ズシャ、とぼくはランドセルを鳴らして言う。

「おれね、教科書ぜんぶ学校に置いてってる」

「え、隠すところある？ 先生すぐチェックするじゃん」

「まずお道具箱の下だろ、あとロッカーの給食袋きゅうしょくぶくろの中と、体操着袋の中」

教室に着くと、シンジュは「ほら」と隠していた教科書を見せてくれた。丸まった教科書が給食袋と体操着袋から一冊ずつでてきた。

「すげえ」

シンジュは丸まるのを利用して教科書を机に立てて授業を受けていた。見にくそうではあったが、そのぶん机を広く使っている。

ぼくもとなりの人に見せてもらっている国語便覧のはじを持ち上げて重さを量りながら、つぎからは学校に置いていこうかと考える。ぼくたちの教科書でいちばん分厚い国語便覧は四年生のときに配られたもので、「六年生まで使うからなくさないように」と言われて

いる。三年分つまっているだけあって、とても重い。きょうの新記録は国語便覧を忘れたおかげも少しあるのかもしれない。

「なに、裏みたいの?」

⑥ となりの席の権ちゃんけんちゃんがひそひそと言う。

「あ、ごめん、大丈夫だいじょうぶ」

「坪内くんつぼうちが忘れ物なんて、めずらしいね」

「そうかな」

「うん。てゆか便覧、持って帰ってんの?」

「え、権ちゃんも置いてってるの?」

「当たり前じゃん」

「そうなの」

権ちゃんは「当たり前」を使うのが好きだ。給食でぼくの苦手な牛乳プリンがでたとき、「食べる?」とたずねると「当たり前じゃん」と言つて二口で食べたし、ぼくが女子の中で流行っている交換日記こうかんのメンバーに無理やり入れさせられたときは、「一日で次の人に回すのが、当たり前だから」とぼくに注意した。結局交換日記をぼくは三日かけて回し、次のターンでは回すこともできずにどこかになくしてしまった。

「でも毎回便覧持つて帰るなんて、お勉強、すきなよね」

権ちゃんは貴族みたいな口調でそう言った。

「まあね」

ぼくは権ちゃんの「お勉強」という言い方が少し気になったし、お勉強など好きでもなんでもないが、それについては何も言わなかった。相手につつかかっても争いが生まれるだけだと、兄ちゃんに教えてもらったからだ。

とは言いつつぼくの兄ちゃんは無口すぎると思う。ぼくに対してはぺらぺらしゃべるのだが、たとえばママに対してはほとんど何

も言わないし、大家さんに会ったときなんてぶつきらぼうすぎて睨まれていた。ぼくに人との関わり方を教えるくらいなのだから、頭ではいろいろわかっているはずなのに、どうして実行しないのかはわからない。でも代わりにぼくの兄ちゃんは物知りで、とても絵がうまい。ぼくは兄ちゃんの知識も絵も好きで、^⑦ 国語便覧を持って帰っているのもそれが関係している。

(川上佐都^{かわかみさと}『街に躍^はねる』(ポプラ社)より)

(注) 国語便覧——国語の資料集。

問1 ——線部①「左手に書かれた『国語びん』に気づいたとき」について、以下の問いに答えなさい。

(1) 「ぼく」が走っている途中で「国語びん」の字を見た瞬間の気持ちはどのようなものだと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「いい調子だ。ここまで『国語びん』の重さを忘れるぐらい快調なペースで走ることができているぞ」

イ 「そうだ、思い出した。『国語びん』の『びん』の下には赤い水性ペンで『らん』と書いたんだ」

ウ 「しまった。あれほど気をつけていたのに、家に『国語びん』を忘れてきてしまった」

エ 「弱ったぞ。『国語びん』の字がしっかりと皮膚にしみこんでいるからあとで消すのが大変だ」

(2) 「ぼく」が「国語びん」と左手に書いたときの気持ちはどのようなものだと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ノートではなく手に『国語びん』と書いたのを誰かに見つかつてもすぐに消せるように水性ペンで書いておこう」

イ 「家に置きっぱなしにしている『国語便覧』を次の授業で使うので、持っていくのをぜったいに忘れないように書いておこう」

ウ 「手にペンで文字を書くとは癌になるという不吉な噂が怖いので『国語びんらん』と全部書くのはやめておこう」

エ 「明日の時間割の持ち物を全部書くのはめんどくさいから、国語で使う『国語便覧』のことだけを書いておこう」

問2

② にはどのような時間割が入りますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国語、理科、算数、算数

イ 国語、算数、理科、算数

ウ 国語、理科、国語、算数

エ 国語、国語、理科、算数

問3

——線部③「朝のにおい」について四人が話し合っています。この表現の説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん 「朝のオープン前のお店からパンの香りが漂たってきそうな雰囲気たが、時間表現を多く使って描かれているね」

イ Bさん 「においは目に見えないはずなのに、『ぼく』がどうめいと言ったことによって、朝の白黒の商店街の様子が浮かんでくるね」

ウ Cさん 「朝のにおいというのは、嗅覚きゅうかくだけでなく、『ぼく』の視覚や触覚を通じて捉とらえられるものなんだね」

エ Dさん 「朝のにおいを嗅かぐと誰もが敷しいたばかりの布団に戻りたくなくなってしまふことを上手く比喩ひゆを用いて表現しているね」

問4 — 線部④「両手を広げるぼくに向かって、キャンキャンと犬がほえた」ことについて、「ぼく」は犬の気持ちをどのように考えていますか。本文中の語句を用いて、三十字以上四十字以内で答えなさい。

問5 — 線部⑤「シンジュには悪いけど、あとで説明すればいいや」とありますが、「ぼく」がこのあとで説明するのはどのようなことだと考えられますか。四十字以内で説明しなさい。

問6 — 線部⑥「となりの席の権ちゃん」について、以下の問いに答えなさい。

(1) 「権ちゃん」が口癖である「当たり前」という言葉を使ったのはどのような場面ですか。適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」から国語便覧の裏を見せてほしいと頼まれたとき。

イ 「ぼく」から国語便覧を学校に置いて帰っているのかと聞かれたとき。

ウ 「ぼく」に交換日記の回し方について注意をするとき。

エ 「ぼく」の苦手な牛乳プリンを代わりに食べるかとたずねたとき。

(2) 「ぼく」は「権ちゃん」に対してどのように接していますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国語便覧の裏側を見たいのも言い出せないほど、遠慮を見せている。

イ 適当な態度だと怒るため、貴族に対するようにへりくだった態度で向き合っている。

ウ 相手につつかかっても争いが生まれるだけなので、何も言い返さないでいる。

エ 交換日記をするくらい好意を持っているが、そのことを言い出せないでいる。

問7 — 線部⑦「国語便覧を持って帰っているのもそれが関係している」とありますが、「ぼく」が国語便覧を学校に置きっぱなしにできなかったのはどうですか。四十字以内で説明しなさい。

問8 次のA～Dの文を読み、本文の内容にあてはまるものに○、あてはまらないものに×をつけなさい。ただし、すべて同じ記号で答えた場合は、採点の対象とならないので注意すること。

- A 稲荷通りマラソンは、下校の時であってもシンジュが参加することはない。
- B 「ぼく」とシンジュは、険悪なときには、手で動物を作ってそれに会話させている。
- C 担任の先生は、時間割のプリントのミスをしていなかった。
- D 権ちゃんは先生の目をごまかすため、国語便覧を給食袋の中に隠している。

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① カイガンまで敵が攻めてくる。
- ② 大妻多摩の理科では自然とジツサイにふれあうことを大切にしている。
- ③ 先輩がシユタイとなつて学校説明会を開催する。
- ④ 探究プレゼンテーションで活躍した生徒がシヨウジヨウを受け取る。
- ⑤ 友だちと力を合わせてキョウチヨウセイを身につける。

問2

次のことわざや慣用句の□□に当てはまる適切な漢字を一字で書きなさい。

- ① □□は災いの元
- ② かわいい子には□□をさせよ
- ③ 壁に耳あり障子に□□あり
- ④ 鬼の目にも□□
- ⑤ 余り物に□□がある

以下余白

